

第4回 団体交渉議事録案

日時：2013年10月18日（金） 11時00分～12時30分

出席者：

組合側：原田執行委員長、水野副執行委員長、荻野書記長ほか 6名

大学側：前田理事、石井理事、鍛冶人事課長、中村職員課長ほか1名

1. 附属学校園教員の給与減額に関わる就業規則の改定案について

【書記長】前回、学内での決定手続きに問題があったことを認めていただいて、学内での説明を進めていただけたということだったが、この間、大学としてどのような答えを出されたのか説明いただきたい。

【前田理事】学部長、統括長には説明させていただいたが、附属にも静岡に園長を含めて説明した。順次来週浜松も島田も足を運んで、概要の説明をして意見交換したいと考えている。

【書記長】前回平行線で終わり、われわれの言いたいことも前回から変わることはないが・・・

【前田理事】われわれも今回の結論に関しては、附属の給与の格付けが下がるということも、先生方が一生懸命業務されていることも理解している。そのことも十分理解した上で判断だということをご理解いただきたい。現場の先生方に十分説明がされなかったということで説明し、これからも行っていきたいと思っている。今回は附属にかかわることなので、石井理事に出席いただいた。学部長にも必要に応じて情報は提供していきたいと思っている。

【笹沼】説明いただいたのはどのようなことか。

【前田理事】額や対象など今回の引き下げの内容、引下げに至った考え方、事情を説明させていただいた。

【書記長】反応はどうだったか？

【前田理事】静大に来るときに全部ではないが平均的に下がっているということ、忙しい中で高い志を持ってがんばっている方々が多いから、こういうことは苦しいという話をお聞きした。

【笹沼】こちらのどなたが、どなたに説明したのか。

【中村職員課長】前田理事、石崎総務部長、鍛冶人事課長、中村職員課長、給与第一係長が伺った。

【前田理事】石崎総務部長はいなかった。わたしと両係長が伺った。附属は3名。

【中村職員課長】小、中の副校長先生と副園長先生、特別支援の副校長先生は出張のため欠席した。

【笹沼】みなさんそもそも低い給料でがんばっているというご意見だったそうだが、減額の中身についての意見はどうだったか。

【前田理事】緩和できないかという話だった。

【笹沼】どのくらいの緩和か。

【前田理事】具体的な数字はいただけていない。職員の削減よりも少ない率になっているし、ボーナスも削減されていないので、それなりに緩和されている状況がある。実施時期に関しても、静岡県9月1日、静岡市10月1日であるが、11月1日なので、そのへんの事情も考慮して理解いただきたいと申した。

【増田】(昨年度給与削減の際の)資料を見ると「附属学校の教員は98%が静岡県との人事交流者である。静岡県は給与水準を下げないこととしていることから、人事異動への影響を考慮し、減額支給措置は講じないこととする」と書いてある。人事異動について判断すると、こちらへ来ると

給料が下がるのだから、このときの判断は正しかったと思う。今回、県が給与を下げることになったので、大学としての判断をしたということだが、この判断について人事異動などを考慮したら、やはり下げないという判断をすべきだと思う。予算的には大した額ではないとは思いますが、この額を下げることの影響は大きいと思う。組合としても以前は県の水準に合わせてほしいという要求もしていたが、大学は考慮していなかった。今回県が下げたから下げるという判断は、安易だと思う。人事交流等も判断して、下げないという議論をしてもいいのではないかな。

【前田理事】今まで敢えて国の対応はしてこなかったが、執行元の県と市が引き下げていないということでそういう対応をさせていただいたが、県も市も給与を引き下げることなので、その範囲であればぎりぎり止むを得ないと考えている。国に合わせるのではなく、あくまでも県の水準に合わせて、実施時期も11月ということであるから理解いただけるのではないかなと思っている。内外的にも対外的にもやむを得ない判断ということで、決断させていただいた。4月の10日に一般職員の削減について通知したときにも附属の教員については引き下げないこと、静岡県との状況を踏まえて考えるということも併せて公表させていただいている。

【笹沼】県と市の状況に合わせているということだが、浜松市の引下げの状況はどうなっているのか。

【前田理事】県費職員として派遣されているということなので、浜松の方も県の水準に合わせてかたちで引き下げられている。

【笹沼】率もまったく同じか。

【前田理事】そうだ。政令市だが、確認させていただいたが、職員給与については県の予算になっている。

【笹沼】給与水準もそうか。

【前田理事】そうだ。

【笹沼】県の人事委員会で引き下げは問題があるという意見が出ているが、それはどう考えているか。

【前田理事】県が判断して条例改正され施行されているので、県の判断次第。

【笹沼】県のチェック機能を果たす人事委員会が問題があると示されているのにもかかわらず、大学がそのまま受け入れるというのはいかがなものか。

【前田理事】県当局がどのように考えているかをベースにして考えていきたい。

【笹沼】大学として、人事委員会の意見はどのように考慮しているのか。

【前田理事】県の動きを把握して対応していきたいと思っている。

【笹沼】人事委員会の考え方をどのように判断しているのか。把握していないのか。

【前田理事】とくに把握していない。あくまでも県の給与規則の改正に合わせて対応させていただきたい。

【笹沼】その給与規則の改正について、正式な機関である人事委員会の考え方を考慮しないというのは、国の人事院勧告の考え方を考慮しないということではないか。

【前田理事】国の場合も法律が改正されなければ対応しない。人事院勧告が行われて、それを政府が対応していくかを踏まえて対応させていただいているから、もちろんそういう方向があるということは認識しなければならないが、県の人事委員会の話があったとしてもそれを踏まえてやり直すことはない。

【笹沼】静岡大学は県の機関ではないのだから、知事が決めたことをそのまま従う必要はない。あ

くまでもひとつの参考情報にすぎないと思うが、県の人事委員会の方で問題ありと出しているのだから、そのまま決定に従う必要はない。自主的に静岡大学として決定できるのだから、問題ありということにわざとあわせる必要はない。把握していないということであれば人事委員会の見解を把握した上で、検討して見直すことも可能なのではないか。

【前田理事】 県が条例案を出して議決して改正されるというのであれば考える必要があるが、決定を踏まえて判断をしなければならない。人事委員会の勧告は情報収集していきたい。

【笹沼】 情報収集した上で、それを判断材料にすることはあるのか。

【前田理事】 県の条例改正の動きを待って考える。

【笹沼】 静岡大学は県の機関ではない。

【前田理事】 われわれとしても条例が施行されたことを根拠のよりどころとしている。

【笹沼】 根本的な矛盾がある。県の条例に基づいて…

【前田理事】 基づいているわけではない。踏まえている。

【笹沼】 附属学校の教員の給与を決定するのであれば、もともとの前提が適用されていない。国の基準で給与が算定されているのであるから、県の条例を根拠にするのは…

【前田理事】 根拠ではない。参考とさせていただいている。

【笹沼】 参考だというのなら、県の人事委員会の意見という参考にするべきものがあるのではないか。静岡大学というひとつの法人が、附属学校園の教員給与を決定する判断過程の考慮事項のひとつとして、県の条例があり、その条例については人事委員会が見解を出しているのであれば、考慮事項になるはずである。

【前田理事】 それは思いの話だ。

【笹沼】 思いではなく重み付けとして、静岡大学の判断の考慮事項になるのではないか。

【前田理事】 県の方がどのような判断をするのかを待って、対応したいと思う。

【笹沼】 人事委員会を無視するかということか。

【前田理事】 職員の身分について人事委員会が設けられているのだから、その見解を無視するというのを早々に表明するのはいかなものか。

【石井理事】 県の人事委員会は国の人事院に当たるわけで、今回の国家公務員の給与削減は人事院勧告を無視して実施された。人事院は民間給与準拠で人件費を決めているが、国会は人事院勧告とは別の形で予算を決定した。静岡大学の給与も人事院勧告を無視して行われたわけで、県の人事委員会も民間給与準拠、国家公務員準拠で決めるのであるから、今回の給与削減に反対するのは当たり前のこと。われわれとしては人事委員会や人事院の答申は答申として聞くが、結果として給与が下がったかどうかで動かざるを得ないと考えている。

【笹沼】 ここは公務員ではない。静岡大学というひとつの法人の意思決定や機関決定をするときに、国の法律や県の条例はひとつの参考材料にしか過ぎない。実際に予算とは別の問題なのであって、給与をどのようにするかというときに役員報酬を下げて、その分附属の先生方の給与を維持するというのも可能である。さまざまな考慮事項があって、それをどのように考慮したかが重要なのであって、考慮すべき事項を考慮しないのは、判断としておかしいのではないか、プロセスに問題があったのではないかということになる。最初から人事委員会が何を言おうと関係ないという理屈は通らない。

【前田理事】 どうでもいいとは言っていない。

【笹沼】 どのようにその意見を評価するのかは、やっていただきたい。

【石井理事】今回の附属学校園の給与削減に関しては、昨年の7月に法人全体の引下げを行ったときに、担当理事として県や市との人事交流があるから、県や市が引き下げない限りは下げない方が望ましいと言った。それについては役員、経営協議会に理解いただいたが、地方公務員が下げたら下げざるを得ない、予算的には法人に来ていないのだから、そこを下げないのであれば説明がつかないので、他の部局から附属の人件費はお荷物だと思われるので説明がつかないので、向こうが下げたら下げますよということで理解いただいた経緯もある。役員の給与は緩和措置を取らずに国と同じ基準で下げている。まったく同じようにやっているわけではない。

【笹沼】ひとつの法人として考慮することがあるであろうということだ。附属学校園を維持するためにどうすべきか、まずそこから始まるのではないか。附属学校園の教員の給与が負担なので廃止すべきだという意見が出てくるということだったが、そういう意見もあったのか。

【石井理事】附属学校園の給与について部局長会議等でしばしば問題になるのは、他の部局や職員については国の定削のときから人件費削減がかかっているが、附属学校園の教員についてはかかっている例外的な扱いを受けている。山崎理事のときにファイナンシャルプランをきめたときに、附属学校園は1%削減をかけないと言ったときに、いくつかの部局長からなぜかという疑問が上がった。それに対しては、附属のクラス編成等が職員数の最低になっているので、クラス数や学校規模を変えない限りは職員の削減はできないと答えた。ただこういう厳しい時なので、クラス数の減や学校の減の指摘がいくつか挙がったのも事実。そういう中で、附属学校園を下げないことで大学全体の理解を得るのは大変なことで、大した金額でないとは言え、全体のバランスを考えると今回引き下げざるを得ないのではないかと思う。

【笹沼】過去の時点でどの部局がどういう意見を出したのか。また、現在のこの引き下げに対して、どの部局がどういう意見を出しているのか。それに対して石井理事がどういう説明をしたのか。

【石井理事】今回の給与の削減については時限的な措置なので、部局長の意見を伺う機会はなかった。部局長の共通理解として、附属だけが例外とされていることは、他のところに負担をかけていて重荷になっているというのは一般的了解の事実である。

【笹沼】いつの時点の理解か。石井理事が推測されている事実なのか、どこかの機関決定されたことなのか、意見として出たものなのかを教えてください。

【石井理事】それは評議会でファイナンシャルプランが説明されたときの議事録を確認してもらえない。公開されているわけだから。

【笹沼】いつ附属が重荷で、早く給与減額すべきだということが出たのか。

【石井理事】給与減額すべきだという意見が出たわけではなく、附属を1%枠の枠外にしておくのは法人の判断としていかなものかという意見が出たということだ。

【笹沼】それは過去の時点ですか？

【石井理事】そうだ。

【笹沼】今回は？

【石井理事】今回そのことについて議論したものではない。

【荻野書記長】前回理事から学内の一般教職員との均衡の問題があるということで、今石井理事から説明いただいてそういうことがあるかもしれないと思ったが、ただ今回の問題、残り5ヶ月の削減の問題に、そう対応しなければならぬ学内的な不満があるとは思えない。

【前田理事】そういうわけではない。ただ大学の教職員は給与を削減されているし、国からも給与特例措置を踏まえたかたちでの削減の要請が来ている。税金をいただいている公的な機関として、

本来は全教職員に給与の削減措置を講じなければならないところだが、附属の方に関しては、地方自治体が引き下げを行っていないこと、人事交流を円滑に進めて行くべきことから除かせていただいたが、県や市が下げたのであれば、その水準くらいは引き下げるのは筋であろうという考え。ほかの職員もそうであるし、来られている方にも納得していただけるだろうと決断に至った。

【笹沼】 県の教職員として働いていたときよりも附属に来たときに下がっているのだから、実質的に先行した給与引き下げである。それを専攻して行ってきたのだから、全構成員で少しでも負担して引下げを抑制しよう、県に合わせていく努力をする好機ではないか。

【前田理事】 人事院規則に踏まえたかたちでの格付けを、現給保障的な対応でシステムを変えるのは財政的に厳しい判断となる。大学の予算として経常予算となってしまうので、慎重な判断となる。これを好機に見直すのはなかなか決断しづらい。

【笹沼】 全面的に見直すのは難しいかもしれないが、この数カ月だけ引下げを止める、結果的に今働いている方に対しては、それなりの改善策を講じたということになるのではないか。少なくとももう少し削減率を下げしてほしいという意見も出ているようなので、考え直すことはできないのか。

【前田理事】 一般職員も納得はしていないはずだ。

【笹沼】 県の職員の方が静大に来て下がり、いっそう忙しくなるのと、もともと静大にいるのは事情がちがう。

【前田理事】 一般職員に関してもラスパイレス指数が低いということで、一般職員の方も考えなければならぬところで、県や市から来ていることで事情はあるだろうが、金額的には一般職員より低くボーナスも下がらないわけであるから、一般職員よりは緩和されている状況を理解いただいて、引下げを理解いただきたい。

【笹沼】 もっと理解しやすくする措置は考えないのか。たとえば率を下げるとか、実施時期を遅らせるとか。

【前田理事】 そういう話は今承ったが、県が9月1日から実施しているので、11月1日からやらせていただきたい。話があったことは承った。

【荻野書記長】 県の方は浮いた額を使う理由があるが、われわれは浮いたお金を県に差し出すわけではなく、何か必然性がない気がするが。

(大学側から財務関係の資料提出、説明)

【前田理事】 真水の予算は青色のところ、われわれも真剣に考えなければならぬところで、こんなかたちで下がってきている。おそらく今後も続くであろう。そんな状況で、いろいろな施設の改修も繰り延べしている状況で、累積している。今年度は新たに補正予算が70億くらいついていて、14%くらい人件費、資材が値上がりしていて、この何年か追加しなければならない。円高の影響もある。来年度以降の予算がどういふぐあいで組まれていくか見通しが立たない中で、人件費を削減していることもあり、ぎりぎりの予算運営をしているような状況だ。浮いたお金をどう使うかということで、下がった分を街灯のように教育関係の充実等目に見えるかたちで対応させていただきたいと考えている。来年度高熱水費も上がり、消費税がどうなるかということで、どのように措置されるか…

【笹沼】 予算に関しては、経営努力の問題だ。労働者には関係ない。新たな建物を建てるのに、施設改修ができていない、附属で基盤整備ができていないのは、経営者の責任を自覚していただく

しかない。今問題なのは、確かに予算が少なくなっているかもしれないが、貴重な人件費を、しかも1400万という莫大な金額ではないのだから、どこかを節約することによって賄えるかもしれないのだから、それを探していただいて、減額を回避、抑制していただきたい。人を大切にしないところはサンヨー電気のように潰れていく。静岡大学は教育を行っている。教育は人であるから、教員を削ったり教員の給与を削ったりすれば、やる気がなくなる。そうすればアウトである。附属の教員は、県の教員でいた方が給与が高いというのであれば、わざわざ静岡大学に来たいとは思わない。ここで1400万という多くない額を体面であえて引き下げれば…

【前田理事】体面ではない。すべての独立行政法人も含めて国の水準で引き下げているし、税金をいただいている国立の機関としては、対外的な説明責任がある。財源的な問題だけでなく、国民から信頼されて批判を受けない経営をする必要があるので、それが対外的ということだ。

【荻野書記長】06年からの人件費5%削減で、他大学が7、8%のところ静岡大学は11~2%削った。静岡大学は人件費に関しては躊躇なく削ってきた印象を受ける。認識として間違っているか。

【前田理事】人件費削減については予算のベースの話で、給与削減の話とは少し違う。給与削減をするかしないかはすべて公表しなければならない。給与の改正をすると報告しなければならない。国家公務員に準じて位置づけられているので、うちだけ高い給与水準を引くというのはやりづらい。

【石井理事】静岡大学の問題点は、教員はほかの大学に比べて減らしすぎてはいないが、職員を人件費ではなく数でやったために、給与が高い人が辞めるときに当たったので、そこを削りすぎたという反省はわれわれにもある。職員の方の定割を今のペースでやるのは見直そうと言っている。教員の方を減らしすぎたということはない。

【笹沼】やはり人を育てる機関で、人を大切にしないというメッセージを出すということは、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の子どもたちに対して、非常にマイナスのメッセージになると思う。県の先生よりもともと低いということは、中学生くらいになればわかる。それなのにまだ下げられる。子どもたちや親たちにどうやって説明するのか。だから附属の先生たちは面倒を見てくれないんだとそう言われたらどうするのか。

【前田理事】来年の3月までなので、理解していただくしかない。自治体も下がっているので、父兄にも理解いただけるのではないか。

【笹沼】給与下げても同じ質の教育を提供しますと胸を張って言えるということか。

【前田理事】そういうことを言っているのではない。

【笹沼】給与が下がってもきちんと働けと附属の先生方に言うということか。

【前田理事】そういうことを言っているわけではないが、よろしく理解いただきたいということだ。

【笹沼】理解するだけの情報や誠実な対応が求められるのだ。副校長への説明も直ちにやってほしい。

【前田理事】研究発表会等があり、日程調整が進まなかった。

【笹沼】忙しいからだ。そういう忙しい人の給与を削ることを言いに行くのに、なぜもう少し忙しくないときに来なかったのかということだ。

【前田理事】今後は適切に対応していきたいと思っている。来週早々に回って、事情は説明したい。

【笹沼】謝罪も含めてやっていただきたい。

【前田理事】もちろん謝罪もさせていただきたい。

【笹沼】理解してほしいというのであれば、それなりの方法を取ってほしい。

【増田】今までも人勸準拠ではなく、人勸を踏まえて大学の状況を踏まえて判断するという回答をしている。大学の状況、給与が県より低いとか、国家公務員より昇格が遅くて給与が低いというような状況を踏まえて判断するという回答があった。先ほどの資料については、去年から今年が6億減っているのは、特例法で削減分を運営費交付金から差し引いた分で、これは想定内の範囲内。今まで言っているところの事務職員を削減することは、前の中期計画のときに10%減らすことを提案して実行して減らしている。中期計画では6%のところを静岡大学は12,3%の削減をした。それはやりすぎだと組合から言っている。だからこれ以上人件費を減らすのは断固反対だと言っておきたい。

【前田理事】予算など総合的に判断した上でのぎりぎりの決断であることを、附属にもまわって、状況や経緯を説明していきたい。

【原田委員長】附属学校園教員の業務の実態、繁忙多忙、多岐にわたる業務、遅くまで勤務されるなどを意味されているであろうし、県との格差があることで、使命感や意欲に頼ってはいけない状況になりつつある。人事交流で附属学校園の教育研究、さらには学部、大学院の教育研究の水準を発展させていって、地域へ貢献する。そのためには県との人事交流ははずせない。しかしそれを踏まえながらも当初の提案どおりの削減をお願いしたいということだと思うが、それならなぜ、こういう原案が出てきたのか。静大教職員とのバランスを図るとか、県や市が下げたからという理屈で計算されたというのはわかるが、特殊要因、特殊事情がどういうふうに反映されているのかがわからない。

【前田理事】下げ率の問題、実施時期を11月ということで、必ずしも県や市に合わせたわけではない。そういったことで今回の内容であればいたしかたないと理解いただけるだろうという判断の元で対応させていただいた。研究発表だけでなく、12時ころまで、泊まったりする熱心な方もいると聞いている。新幹線通勤や、そんなに超勤も出るのでどうか、そういうことを二の次にして仕事をしているという。教員研修センターにいたことがあるので、先生方が忙しいのはよくわかっている。研究もやらなければならない、指導もやらなければならない、報告書も書かなければならない。学校の先生は忙しい。

【石井理事】勤務時間管理は校長の責任で、労働基準法に沿って指示していただかなければならない。労働基準監督署の問題になる。

【前田理事】相当忙しいという話は、熱心な先生は泊まるということも聞いている。大変だということは認識させていただいている。

【原田委員長】そういう個人の努力や意欲という客観的に証明が難しいものに依存して、今の教育研究の水準を保っていることがたいへん奇妙である。いつまでもそういうものに頼れないはずなのだが、それに代わるものはそれなりの努力や意欲に対応した給与だと思うが、県職員との給与格差があることが根本的な矛盾となっている。本来であれば、業務の中身が変わらないどころか遙かに労働強化が進むという実態があるのにもかかわらず、格差が放置されることをどう思うか。今後の展望も含めて説明いただきたい。手はないかということだが。

【前田理事】今結論できるような問題ではない。本学の財政状況の中で、直ちに直視することは決断できる状況ではない。前からそういう話は聞いていたので、附属の先生方の教育環境の充実も含めて、どのようなことができるか真剣に考えたい。

【石井理事】初任給格付けについては、静岡県は採用試験に年齢制限を設けていないので、高い年齢で入職する人がいるが、その人が附属へ来ると前歴換算で格付けが低くなる。見直してほしい

ということは附属の運営委員会で言われている。それは局長に伝えているが、大学教員でも民間企業から入ってきた場合給与の格付けが低いのも同じで、ひとつを触ると全部を触らなければならないことから、状況は聞いているが、直そうとすると金目の問題に直結する。何もやっていないわけではなく、昔は管理職手当が副校長は教頭だったが校長の手当にしたとか、浜松の調整手当を1%上げたときに若干差が縮まったとか、まったく何もやっていないわけではないが、格付けを上げると大学全体で数千万規模の人員費増になるので、第3期になるときに運営費交付金の配分原則の見直しが行われているときに、ベースを上げたまま第3期に行くことは、法人全体の経営からいってリスクが多すぎる。言われることはもっともだと思うが、なかなか無い袖は振れないのが実情である。

【笹沼】今の石井理事の話で、附属の教員の給与の問題と、われわれ一般教職員の給与の問題があたかも同じ原則に従っているかのような話だが、違うのではないか。大学の教員は何に従っているか。

【前田理事】勤務評定だ。

【笹沼】人事評価である。附属学校園の場合は別にある。

【石井理事】やり方は各学校でやっている。

【笹沼】そういうことではなく、附属の教員はそもそも規程自体が違うし、評価の仕方が違う。

【石井理事】教員の場合も教員評価の図式があって、部局長がやっている。わたしが言ったのは前歴計算だ。

【笹沼】前歴計算でできないのであれば、勤務評定の付け方で変わってくるのではないか。

【前田理事】総人件費の枠は決まっている。

【笹沼】ひとりひとりの給与をどうするかということは、これで採用できる。それで底上げすることも取れないわけではないではないか。だからこそ附属の責任者に来ていただきたかった。大学の規則があると言いながら、それは国の規則だ。実際に勤務評定は、どちらかというところの教職員の評価の仕方に若干倣ったようになっている。

【石井理事】勤務評定と格付けを混同していると思うのだが、附属学校教員の格差を改善するには、格付けの見直ししかない。勤務評定は個人ごとに付けるのだから、ベースを上げることにはならない。今の問題は、県や市にいるときに国に比べると特昇などがたくさんあたって、通常われわれがやっている勤務年齢、経験年数の計算と、その特昇などの多い部分がずれている。大学に来てからの特昇や昇給の問題ではなく、大学で採るときに格付けの問題。国の基準に従ってやっているということは、県や市の特昇や昇給の実態に合わないずれの問題。

【笹沼】なんとかできる部分はあるのではないかということだ。全面的にできなくても、若干の保障措置はできるのではないか。工夫の余地があるのではないか。

【前田理事】どこをどうできるのかというのは、制度的な問題と予算的な問題を踏まえないと判断できない。全体の教職員のことも留意しながら、財源も伴うので、慎重に考えていきたい。

【笹沼】今まで附属の先生方の給与を下げなくてもいけるはずであったわけであるから、1400万を無理に削らなくてもいいのではないか。若干何らかの措置を取ることはできるのではないか。ボーナス上乘せも含めて、考えられることはいくらでもあるのではないか。

【前田理事】一般教職員はボーナスを下げられている中で、附属教員の方々はボーナスに手を付けないわけであるから、そういうことで理解いただきたい。

【笹沼】給与本体を引き下げられるわけだから、それに対する何らかの保障措置はできるのではな

いか。本当は削減はやめてほしい。やるにしても率を下げるなど方法はあるのではないか。

【狩野】 奇しくも理事が認められたと思うが、深夜まで及んでいるとか、泊まっている人もいるとか、明らかに労働基準法違反の状況である。前に一度附属の先生が内部告発して、労働基準監督署が入る、勤務実態を調べることが実際あったが、こういう不満が積っている中で、少し努力すれば不満を抑えられるかもしれないという状況の中で実行するということは、何かあっても別にかまわないと思っているのか。

【前田理事】 別にそういうことを思っているわけではない。一生懸命やられている状況は認識させていただいたが、われわれも好きでやっているわけではなく、県や市がこういう時期でも下げているということは、短い時間だが、応分の引下げをさせていただくしかない。これはぎりぎりの決断で…

【狩野】 ぎりぎりの決断だというのが、そういう勤務状況を理解している、何か起こってもかまわないという判断で決断されたと思えない。何かあっても対応するということか。

【前田理事】 そういう聞かれ方をすると心苦しいが…

【狩野】 実際問題、現状は理解している、深夜労働もしているという状況も、何か起こったときに理解していたということが、テープに残っている。何か起こったとしても、それと比較して1400万を浮かせることの方が重大だという経営判断だから、実施したいと聞こえるのだが。

【前田理事】 大学の苦しい状況、予算的なものも含めて、円滑な経営を進めて行く上での総合的な判断の中で、決断させていただいた。

【狩野】 リスクは考えたということか。

【前田理事】 もちろんそれも…

【笹沼】 考えてないのではないか。今回初めて聞いた感じである。先生方は自分の研究欲や教育欲に忙しいからあまりそういうことを考えてないのかもしれないが、ご家族はそうではない。県の職員だったときより給与が下がって、泊まりがけで働いている。実際そういうご家族が労基署に訴えた。そういうご家族も含めて責任持てるのか。

【前田理事】 事務職員も忙しく遅くまで働いているのに、給与を引き下げるのは苦しいところだ。だが、国からの要請や予算の状況を考えなければならないので、法人として給与の削減はやむを得ないという判断をしている。納得できない方もいらっしゃると思うが、執行部としてはこういう判断をせざるを得ない。附属の方々にも事情を理解賜りたい。

【笹沼】 危機管理が甘すぎる。では、勤務実態の改善はどうするのか。

【石井理事】 労働時間についてはお金のこととは別に、変形時間労働制で学期期間中は1時間長く9時間労働なわけであるが、それを超えてやる場合はちゃんと超過勤務手当を払うよう、今各学校を回るわけであるから各校長に指導する。

【狩野】 その分は支払うのか。

【石井理事】 超過勤務の実態があるならそれに従って支払わなければならない。

【笹沼】 単に超過勤務だけでなく、泊まり込んでいる、させていることは。

【石井理事】 それは管理者の責任だ。

【笹沼】 だから管理者を出して来いと言った。そういうことも含めて学部長や統括長を出せと言ったが拒否をしたのではないか。

【前田理事】 これは給与の問題だから…

【笹沼】 給与の問題は労働条件の問題と一体だから、呼んで来いと言った。

【石井理事】前回の交渉記録を読んだが、労働時間の問題は出てなかった。

【笹沼】言っている。記録した方が悪い。それは経営者として甘すぎるのではないか。

【原田委員長】状況としてはそういう状況だ。こんなに苦勞させられてという、かなりひっ迫した状況にある。もしかしたらアクションを起こすことも考えているようですので、理事もそのあたりまでは見通してはいるとは思いますが、いざとなったらそういうこともあるかもしれません。脅しているようですが、そういう状況に立ち入ったことも、さらに検討を求めたい。

【狩野】平成16年以降公開されている財務諸表を拾って、目的積立金の残り具合やどこからねん出されたのかなど、6年間の間は積立金の中で人件費は何億だという記載があったが、第2期からは記載がなくなって、何のお金で残っていたのかが追えなくなっていたり、目的積立金を何に使ったかが曖昧な表現になった。7億減って大変だというのなら、どういう予算を立てて、どういうふうに執行しているのかを全員に公開して、みんなで知恵を絞ったらいいいのではないか。具体的な内容や数値を詳しく教えてほしい。

【前田理事】目的積立金の財源のどこか。

【石井理事】各部局の未使用があつて、国も目的積立金の限定の方針を出してきたのだが、昨今は残すのではなくて、次年度まで事業を継続する等で積み替えるようにしている。

【荻野書記長】もともとの出所は人件費だったのではないか。お金の管理がどうなっているのかわからないと不安になるので、できるだけ透明性を上げていただいて、ない袖は振れないというのがどこまでそうなのかというのを、雑駁に言われてもわれわれはわからない。

【前田理事】剰余金が出ないかたちで計画的に執行している。

【狩野】学長裁量経費のように何に使ったのかわからないけれど使いましたという感じで、不透明な部分が多い。どう言う目的で使われたかわからない部分が近年増えてきているので、去年とか今年の詳しい数値を示していただけると知恵を絞れるのではないか。

【石井理事】学長裁量経費は会議にかかっている、各部局で当初予算に足りないところの埋め合わせに使っているのが公開するのは問題ない。

【狩野】公開してほしい。

【石井理事】大学の帳票の公開は求められているので、決算予算も含めて、できる限り透明にやっていくのは問題ないのではないか。

【前田理事】たださっきも言ったように、税金をもらっている機関として、給与の水準は適正に国の要請も受けているわけであるから、財源の問題もあるが、そういう背景も含めて、同じ水準を決めなければならないというのは理解いただきたい。

【増田】人件費剰余額が7億円くらい出るのは当初から出ていたが、それを目的積立金に回すのは会計検査院から指摘されるので、戦略的経費に回したという説明はされている。昨年度今年度はどのように使われているか出されていないので、そういう指摘だと思う。

【笹沼】お金を残して返納するとかいう経営上のミスをしてきているわけだから、教員職員を大切にするという姿勢を見せていただきたいと思う。

【前田理事】職員を大切にすることは踏まえて運営していきたい。